



全国国公立幼稚園・こども園
PTA連絡協議会

会報



第54号
発行者
全国国公立幼稚園・こども園
PTA連絡協議会
会長 猪木直樹
事務局
岡山県倉敷市玉島阿賀崎1-2-31
玉島テレビ放送(株)内
印刷
株式会社玉島活版所

「松柏千年翠」

全国国公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会

会長 猪木直樹



「松柏千年翠」これはお茶の世界において、年頭やお祝いの席に使われる禅語です。「うつろう美」に対して「うつろうことのない不易の美」を象徴した句です。すなわち我々の日々の活動に当てはめるならば、どんなに時代が変わろうとも幼児教育に携わる者として本来あるべき姿を大切にすることと理解するべきだと思います。

あたり、謹んで新年のお慶びを申し上げます。全国国公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会会員の皆様ならびに関係各位におかれましては、平素より本会の運営と活動に対するご理解・ご支援をいただいておりますことを心より感謝とお礼を申し上げます。

昨年も全国各地で、自然災害による被害があったり、信じられないような事件・事故が多発したりしました。戊年の本年はすべての人々が幸せな日々を送れることを願うとともに、我々にとつて様々な有益な情報・もの・こと・ひとを取り込み、本会の益々の充実発展に向けて迷うことなくまっすぐに走り抜ける年になることを願っています。

新しく幼稚園教育要領が施行されるにあたり、国公幼の先生方が、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた、心身ともに健康な国民の育成に期すという目的のもと、カリキュラムマネジメントに努めてくださっていることに感謝し、我々の活動をより深いものにしていきたいと

改めまして平成三十年の念頭に

改めまして平成三十年の念頭に

考えます。昭和三十八年設立より半世紀に渡り培ってきた歴史と実績をもって、子どもたちの幸せのために本来のPTA・本来の親としてのあり方を貫いていきたいと思います。それが現代社会の中においての我々の責務であると思えます。

今年も全幼Pとして各々団体との連携を密にし、各地域の想いをしっかりと受け止め、希望ある社会構築のために日々精進して参ります。本年八月には徳島県において全国国公立幼稚園・こども園PTA全国大会「徳島大会」が開催されます。日本の三大盆踊りの一つである阿波踊り発祥の地である徳島にて、意見を交わし見識を深め子どもたちの成長に繋げていきます。ぜひ奮ってご参加ください。すすようお願いたします。すべては未来を担うすべてのこどもたちのために！

平成29年度優良PTA文部科学大臣表彰

平成29年8月6日に第55回全国国公立幼稚園・こども園PTA全国大会「滋賀大会」において表彰式が行われた。

- 群馬県 館林市立杉並幼稚園PTA
- 東京都 新宿区立西戸山幼稚園PTAわかかさ会
- 静岡県 袋井市立笠原幼稚園PTA
- 静岡県 菊川市立小笠南幼稚園PTA
- 京都府 京丹波町立須知幼稚園PTA
- 大阪府 大阪市立伝法幼稚園PTA
- 兵庫県 キッズランドやちよさくら会
- 岡山県 岡山市立岡山中央幼稚園PTA

- 徳島県 徳島市立沖洲幼稚園PTA
- 香川県 高松市立木太北部幼稚園PTA



幼稚園教育、幼保連携型 認定こども園における 教育及び保育の方向性

文部科学省初等中等教育局幼児教育課
幼児教育調査官

河合 優子



幼稚園や幼保連携型認定こども園は学校です。そのため、小学校以降の学校種と同様に教育課程を編成し、それに基づいて教育活動を行ってまいります。教育課程は、各園が入園から修了まで「どのようなねらいで」「いつ」「何を」「どのように」教育を行うのかということを示したものです。こうした各園の教育課程は、国が大綱的に示した「幼稚園教育要領」に基づいて編成されます。幼稚園教育要領は昭和三十一年に作成され、概ね十年に一度、その時々の子供ととりまく社会等の実情や学校教育において必要とされる教育内容などを踏まえて、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領と共に改訂されてきました。直近では平成二十九年三月に改訂され、平成三十年四月から実施されます。そこで、新幼稚園教育要領について改訂の一部分を含めて紹介します。なお、幼保連携型認定こども園には「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」があり、教育に関わる部分は、幼稚園教育要領と同様の内容になって

います。
○変わらず、これからも大切にすること

幼稚園や幼保連携型認定こども園では、環境を通して行う教育を基本として、「幼児期にふさわしい生活の展開」「遊びを通しての総合的な指導」「一人一人の発達

の特性に応じた指導」を大切にしています。その中で、遊びや生活といった直接的・具体的な体験を通して、幼児一人一人の自主性、自発性、主体性を育てています。例えば、冬になると園内のあちこちに氷が張りつめます。容器に入れた水が凍り、だれが一番厚い氷ができるのだろうかと疑問をもった

幼児は、実際にそれぞれの場所に行き、「こっちの方が寒いよ。だからたくさん凍るんだ」「こっちはおひさまが当たるから凍らないんじゃない」「いろんな場所に入れて物を置いて、調べてみよう」「水に葉っぱを入れておいたらどうなるかな」などと、身近な自然にいろいろなやり方で関わっていきま

す。
このように自分たちで選んで夢

中になって遊ぶ中で、発見する、仕組みや特徴に気付く、考える、言葉で伝え合う、意欲をもって取り組むなどの姿が見られます。こうした姿の背景には、幼児の興味や関心、発達などを踏まえて、思わず関わってみたいくなるような環境を構成したり、遊ぶ中で十分に試行錯誤できるように援助を行います。

○社会に開かれた教育課程

これからの時代を生きる子どもたちには、情報化やグローバル化など急激な社会的変化の中でも、未来の創り手となるために必要な力を育ていくことが求められており、「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という目標を学校と社会が共有して実現していくことを、今改訂で重視しています。そのために、園において思い描く教育を教育課程で明らかにして社会と共有し、社会との連携及び協働によりその実現を図っていくことが大切です。

各園には、教育の方針や、実際に行っている教育内容を保護者や地域住民などに伝えることが一層求められています。保護者の方は、教育課程について保護者会など様々な機会に説明を受けた

り、園や学級等からの便り、降園時の話や写真などの掲示物等で、具体的なお子さんの様子やそこで学んでいることを知ったりする機会があることでしょう。ぜひ幼児

の学びに関心を寄せ、各園で実践されている教育への理解を深めていただきたいと思えます。

○幼稚園、幼保連携型認定こども園において育みたい資質・能力

今改訂では、前述したこれからの時代を生きる子どもたちに育みたい資質・能力を、三つの柱で整理して明確化しました。幼児期から高等学校卒業までを見通して、「資質・能力」という同じ言葉、同じ観点から整理したことは、今改訂の特徴の一つです。このことにより、幼稚園教育、幼保連携型認定こども園における教育及び保育で育んでいることを明らかに示すとともに、幼稚園、幼保連携型認定こども園が学校教育のはじまりとしてより明確に位置付いたと

考えています。

幼稚園、幼保連携型認定こども園においては、以下の三つの柱から教育の内容を見直し、園生活を

通して幼児期に育みたい資質・能力を育てていきます。

・豊かな体験を通じて、感じたり、気付いたり、分かったり、できるようになったりする「知識及び技能の基礎」

・気付いたことや、出来るようになったことなどを使い、考えた

り、試したり、工夫したり、表現したりする「思考力、判断力、表現力等の基礎」

・心情、意欲、態度が育つ中で、よりよい生活を営もうとする

「学びに向かう力、人間性等」

○小学校教育との接続

小学校学習指導要領に、幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を踏まえて教育活動を実施することが明記されるなど、幼児期の教育と小学校教育との接続を図っていくことも、今改訂の大きなポイントです。そのために、園と小学校の教員が一緒に研修を行い互いの教育を理解したり、幼児と児童の交流活動を行ったりするなど、園と小学校とがつながる取組を一層進めていきます。

新幼稚園教育要領における各地での説明の際に、各園でのPTA活動や園と保護者との連携について知る機会があります。保護者の支えがあつてこそ園での教育が充実していくこと、PTA活動を通して、幼児の園生活や学びへの理解が図れることや保護者同士のつながりが深まっていることなどを多く聞いています。これらは、園と家庭や地域とのつながりを大切にしてきた、これまでの実践の成果の表れだと考えています。今後、「社会に開かれた教育課程」の実現に向けてこれまで以上に園と家庭や地域との連携・協働が重要になります。各園で培ってきた連携やPTA活動の積み重ねなどを生かしながら、幼児一人一人のよりよい成長のために、園と保護者が協働する取組が更に広がっていくことを期待しています。

後、「社会に開かれた教育課程」の実現に向けてこれまで以上に園と家庭や地域との連携・協働が重要になります。各園で培ってきた連携やPTA活動の積み重ねなどを生かしながら、幼児一人一人のよりよい成長のために、園と保護者が協働する取組が更に広がっていくことを期待しています。

後、「社会に開かれた教育課程」の実現に向けてこれまで以上に園と家庭や地域との連携・協働が重要になります。各園で培ってきた連携やPTA活動の積み重ねなどを生かしながら、幼児一人一人のよりよい成長のために、園と保護者が協働する取組が更に広がっていくことを期待しています。

後、「社会に開かれた教育課程」の実現に向けてこれまで以上に園と家庭や地域との連携・協働が重要になります。各園で培ってきた連携やPTA活動の積み重ねなどを生かしながら、幼児一人一人のよりよい成長のために、園と保護者が協働する取組が更に広がっていくことを期待しています。

第五十五回全国国公立幼稚園・こども園PTA全国大会 総会ならびに研究協議会 — 滋賀大会 —

大会報告

日本最大の湖、琵琶湖。そして、歴史と伝統、豊かな自然が調和する滋賀県彦根市において「滋賀大会」が、文部科学省をはじめ多数のご来賓をお迎えし、盛大に開催されました。「母なるびわ湖で 子どもたちの命のこと 子どもたちの命のこと 話してみませんか」と掲げ、社会環境が情報技術発展により急激な変化をみせています。保護者の我が子の健やかな成長と安全に暮らしてほしいという願いは変わらないことを確認し、共に学び合い、確かめ合うことができた二日間でした。提案発表では、三園から園と家庭と地域が力を合わせてPTA活動をしている貴重な実践が発表されました。

記念講演では、講師の日本睡眠教育機構理事長・中部大学教授の宮崎絵一郎先生が「のびる子どもの睡眠学」という演題で「毎朝同じ時間に起きて朝の光を浴びること」の大切さを分かりやすくお話してくださいました。

また、子ども子育て新制度においても、園・家庭・地域社会が協力していくことでよりよいものになっていくことを再認識し、さらにつながりを大切にしていきたい

と感じた大会でした。

大会要項

一 大会主題

母なるびわ湖で 子どもたちの命のこと 子育てのこと話してみませんか！

二 期日・会場

平成二十九年八月五日(土)

北ピワコホテルグライツエ

八月六日(日)

ひこね市文化プラザ

グランドホール

三 日程

八月五日(土)

・会計監査・役員会

・理事会

八月六日(日)

・開会式

・総会

・提案発表・文部科学省講話

・閉会式



第五十五回 滋賀大会 表彰状・感謝状受賞者(敬称略)

全国国公立幼稚園・こども園
PTA連絡協議会会長表彰

前全幼P監事

愛知県 伊藤 友美

全国国公立幼稚園・こども園
PTA連絡協議会会長感謝状

熊本県国公立幼稚園
後援会連絡協議会



平成二十九年活動方針 ならびに事業計画

一 活動方針

明治の時代から子どもの教育には「五育」が必要とされてきました。知育・徳育・体育・才育・食育の五育です。その後、食育基本法が制定され、食育がすべての教育の基礎となるべきものとして位置づけられました。全国国公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会としても数年前から早寝早起き朝ごはん運動を推進してきまし

た。本会はこのように子どもたちにとって大切なことを全国に波及させ、すべての子どもたちの能力を伸ばし、可能性を開花させる教育を実現させるための礎であることに自信をもっています。まさに、「水滴石穿」小さくても少しずつ継続すれば大きな成果を挙げることができると考えます。昭和三十八年 結成以来、半世紀にわたり積み上げてきた歴史と実績をもつて、すべては未来を担う子どもたちのために、これからも精進していきたいと思えます。また、第九次提言に「幼少期からの家庭環境は、子どもの人格形成やその後の能力の発達に影響を及ぼすことから、家庭教育支援チーム等による家庭に寄り添う支援を強化し、全国に普及する」とあります。我々の活動そのものが、まさにチームによる子育て支援であることに自信をもち、さらに充実させ、継続していくことこそが使命であると思えます。

針とします。

記

(1) 義務教育化を前提とした幼児教育の充実

(2) 幼児の安全確保に向けた事業推進

(3) 家庭・地域の教育力の向上

(4) 会員の資質向上と組織強化

(5) 情報共有の強化

(6) 国公立幼稚園・こども園教職員

の待遇改善

二 事業計画

四月～五月

・加入園へ会費納入と滋賀大会案

内状発送

・未加入園へ加入依頼書と滋賀大会案内状発送

・平成二十八年会務報告と決算

報告書作成

・平成二十九年理事名・加入園

名報告依頼

・全幼P全国大会「滋賀大会」の

後援名義使用許可願発送

・滋賀大会の助言者依頼

・平成三十年度全国国公立幼稚園

・こども園PTA全国大会「徳

島大会」における提案発表につ

いて依頼

・日P広報に関する研究会

六月～七月

・第六十八回全国国公立幼稚園・

こども園長会総会「大阪大会」

にて本会発展の協力依頼

大会宣言

昭和38年に設立された全国国公立幼稚園PTA連絡協議会は、今日まで半世紀以上にわたり、幼児教育の振興発展に向けて活動を続けてまいりました。平成27年4月の「子ども子育て支援制度」のスタートにより、認定こども園を含めた組織との連携を鑑み、名称を全国国公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会と改め、日本の未来を切り拓く力を育む確かな幼児教育の充実・発展を目指して活動をしています。

教育基本法（家庭教育）の第10条には、「父母その他の保護者は、子の教育について第一義的責任を有するものであって、生活のために必要な習慣を身に付けさせるとともに、自立心を育成し、心身の調和のとれた発達を図るよう努める」と示されています。しかし、私たちの周囲には様々な情報が溢れ、生活様式など子どもを取り巻く環境の著しい変化を顧みたり、生活のために必要な習慣を身に付けさせたり、心身の調和がとれた発達を図ったりすることが難しくなっている昨今であると感じずにはおられません。私たち保護者は、幼児期の教育が生涯にわたる人格形成の基礎を培う大切なものであることを心に刻み、正しい情報収集に努めるとともに、自分の子どもの未来について真剣に考えるなど、今後の家庭教育のあり方を模索することが重要であると思います。

そこで、滋賀大会では、「母なるびわ湖で、子どもたちの命のこと、子育てのこと、話してみませんか!」と、主題を掲げました。情報が溢れ、変化の激しい社会の中で、健やかな子どもの成長と大切な命を守り育てるためには、何よりも家庭教育が大切です。そして、その要となり、手本を示すのが親の行動と心遣いではないかと考えています。成長著しく豊かな心と体が育まれる幼児期は一度しかありません。かけがえのない子どもたちの未来に向けて、今、親がすべきことは何か、子どもたちの命を守るためには何ができるか、などについて話し合い、互いに知恵を出し合いながら、一層、家庭教育力を高めることを約束し、次の事を宣言します。

- 一、 幼児期の重要性を広く社会に訴え、幼児教育の充実を目指します。
- 一、 家庭と地域、園が協力し、未来を担う子どもを育てます。
- 一、 PTA活動を通して、自らの学習意欲を高め研鑽に努めていきます。
- 一、 一人ひとりが周囲への気遣いを意識し、対話を推進します。
- 一、 子どもの安全確保と園の安全管理を強化します。

平成29年8月6日

第55回 全国国公立幼稚園・こども園PTA全国大会
滋賀大会



- ・平成二十九年度要望書作成
- ・表敬訪問（文部科学省）
- ・第六十四回全国国公立幼稚園・こども園教育研究協議会「山形・福島大会」出席
- ・日P広報に関する研究会
- ・八月〜十二月
- ・第六十六回全国幼児教育研究会（岡山）出席
- ・会計監査、役員会、第一回理事会
- ・第五十五回全国国公立幼稚園・こども園PTA全国大会「滋賀大会」総会ならびに研究大会
- ・滋賀大会決定事項の処理
- ・会報五十四号原稿依頼
- ・徳島大会開催について事前打合せ、表敬訪問
- ・平成三十年度活動方針・事業計画書案と要望書案作成
- ・第二回理事会
- ・理事会での検討事項の処理
- ・日P広報に関する研究会
- ・一月〜三月
- ・会報五十四号発行
- ・未加入県へ加入呼びかけ
- ・平成二十九年度会務報告・会計決算中間報告書・三十年度会計予算案作成
- ・第三回理事会
- ・理事会での検討事項の処理

研究協議

提案発表I

笑顔でつながるPTA
―パツと 楽しく 遊ぶ会―
大阪市立西野田幼稚園
PTA会長
谷村 利貴



一 はじめに

西野田幼稚園は、JR大阪駅から二駅目、野田駅の近くにありますが、大都会にあるのですが、一歩入れば昔ながらの家が立ち並ぶ、今と昔が交錯する町です。大阪の食の中心である中央卸売市場があり、野田藤というきれいなお花が有名な町の中にある幼稚園です。

昭和四年に地域の方の寄付によって設立され、四歳児六十六名、五歳児六十七名の四クラス百三十三名、未就園活動として三歳児五十名が通園しています。

PTAは六つの委員会があります。活動内容としては、夏祭りの実地や運動会、卒園式、入園式の準備などを行っています。PTAの活動に対して、めんどくさい、やらされる、とても大変というネガティブな考えをもたれる方が多く、行事への参加者や手伝う人を

見つけること、役員の担い手を探すことに苦勞し、行事を縮小するような傾向にありました。そんなPTAのイメージを変えたいと、役員が中心にPTAのあり方を考えました。

二 PTAの改革

PTAを調べたら、ペアレント、ティーチャー、アソシエーションと書かれています。ペアレントは保護者、ティーチャーは先生、つまり各学校で組織された保護者と教職員による社会組織団体です。幼稚園のためにボランティア活動をする、お手伝いするということは何となくわかるのですが、どうもわかりにくいということで、PTAを私達なりに訳しました。

Pは、パツと、Tは、楽しく、Aは遊ぶ会です。運営委員会が率先してPTA活動を楽しもうと考えました。

三 たのしいPTA活動

○運動会

PTA競技で、何をするかなかなか決まらず、参加者を募ることも難しかったので、誰でも参加しやすい玉入れに変更しました。絶対に入らない玉入れと名づけ、高さ7mもの籠を用意して、大いに盛り上がりました。見ていた子どもたちも、大人が一生懸命がんばる姿を見て、とても喜んでくれました。

応援団として、PTA役員が西野田レンジャーに扮して登場しました。合間にダンスパフォーマンスをして盛り上がりました。

○子ども夏祭り

PTA総出で、縁的な出し物を工夫し、園庭ではバルーン、遊戯室で巨大迷路を作りました。迷路作りは大変な作業で、何日もかかって、子どもたちのためにすることをしようという気持ちで取り組みました。買い出しから当日の運営まですべてPTAが行い充実した夏祭りになりました。

○ソフトボールチーム

参加人数が増えています。九月に大会があるので、夏休みに練習をしています。卓球チームも盛り上がりました。

四 取組による成果

役員が率先して楽しく活動することにより、その雰囲気は保護者に伝わり、年々参加者が増えています。参加者が増えるだけでなく、PTA活動へのモチベーションも上がってきて、こんなことしようという提案が増えていきます。保護者を巻き込んで、得意分野を出していただくという考え方をしています。

五 近年始まった活動

○演奏家の保護者の方に、子ども向けのコンサートを開いていた

だいたり、絵本作家の保護者の方に読み聞かせをしていただいたりなど、いろいろな保護者を巻き込んでそれぞれの得意分野を提供してもらおうという活動もしています。

○去年淀川へサリガニを取りに行つて、幼稚園にある池に放流したら元気に育ち、子どもたちが毎日のようにザリガニつりをしています。

○幼稚園の裏庭に未利用地があつて、そこを使わせてもらえないかと大阪市と交渉しました。都会の真ん中に畑を作ろうと考え、西野田DASH園児と保護者は裏庭を開拓できるかというキャッチフレーズのもと、裏庭を畑として開拓しよう、畑の名前をつけようと呼びかけました。今まで入って来られなかった保護者の方もどんどん参加してこれ、子どもたちと一緒に芋の苗植えをし、子どもができない部分を手伝ってくださいました。今では、保護者の中で農園部を作り、自主的に活動していただけるようになりました。

先生たちも、園児を連れて畑の様子を見に行き、収穫や世話をしてくださっています。教材として芋の葉を取り入れてくださったこともあり、PTAが取り組んでいることが子どもたちの活動につながっていただ

く思いました。他にも、保護者の有志が集まってバーベキューをしたりアルミ缶回収をして集めた資金でボールを購入したりなど、活動が広がっています。

六 まとめ

人は、笑顔の溢れる場所に自然と集まってきます。笑顔が子ども人の輪を広げ、集まった人たちが仲間になっていくのだと思います。仲間の輪が大きくなることによつて、活発なPTA活動になります。

この幼稚園でつながった保護者同士の絆は、今後の小学校生活においても大きな助けになると思います。困った時に助けてくれるのは仲間、仲間はとても大切だと感じました。

保護者が日頃から幼稚園に足を運び、楽しくPTA活動に取り組み姿を子どもたちが見ることで、子どもたちの心が安定します。笑顔で幼稚園に来てくれるようになります。そのような環境で幼稚園生活を送ることにより、より大きな学びを得ることができると思っています。

大人が幼稚園を好きになると、子どもたちも、もつともつと幼稚園が好きになっていろいろな学びを得ていくと感じています。

PTAを楽しもう

提案発表表Ⅱ

園・家庭 地域社会の連携を深め、子どもたちの健全育成を図る

和歌山県和歌山市立山口幼稚園
和歌山県公立幼稚園PTA連合会

馬場 真奈美



一 はじめに

山口幼稚園は和歌山市北部の紀ノ川筋に位置し県境の山を背に田畑が広がる自然豊かな地域です。園児数は年少十八名、年中十八名、年長二十二名の合計五十八名、各学年一クラスの三クラスです。

本園のPTAは、会長一名、副会長三名、会計監査二名、書記一名、学級委員各クラス一名、部長各クラス一名です。園行事の準備・進行や手伝いの他役員が中心になって行う「手作りおやつ」や「なかよしサークル」があります。

また、役員以外の全保護者が保健部、生活部、文化部のどれか一つの部に所属し、各部の部長を中心に企画・運営を行い、親子行事を開催しています。

二 テーマについて

本園では普段から地域との交流を大切にしています。様々な人と

の出会い、ふれあいを通して、人とのつながりや地域に見守られ、身近な人に愛されているという気持ちやたくさん感じてほしいと願っています。それらの温かい経験を積み重ね、やがてそれらの経験が子どもたちの人とのかわる力につながり、自他ともに大切にできる人郷土愛が持てる人に育つてほしいと願っています。このような願いから園・家庭・地域社会の連携を深め、子どもたちの健全育成を図るための取組について考えていきたいと思っています。

三 山口幼稚園の取組

○泥遊び・田植え・稲刈り
山口地区は田んぼの多いところで、地域の方のご厚意で田んぼをお借りしました。天気の良い日は、泥の感触を楽しんだり、いろいろな生物を発見したりすることができます。田植えの時期になると、農家の方に植え方を教えてもらいます。初めはうまくいかない園児もいますが、コツをつかんでうまく植えることができるようになります。苗の成長を観察して稲刈りを待ち遠しく思う園児も見られます。そして、待ちに待った稲が大きくなると一人ずつ鎌を持って稲刈りをします。なかなか刈ることができず、悪戦苦闘する園児もいます。収穫したお米は、炊いてみんでおにぎりパーティーをして食べます。お米を作ることの

大変さを感じることができ、四季の移り変わりを感ぜられ、食べ物の大切さに気付く食育体験になっています。昨年は地元テレビ局取材に来ていただき私たちも楽しそうに田植えをしている子どもたちの姿を見ることができました。

も、歌・ダンス・手遊びなどをして楽しい時間を過ごしています。このおじいちゃんおばあちゃんたちとのふれあいを保護者は見学する機会はないのですが、笑顔で報告してくれる子どもたちの話を聞くのを、保護者は楽しみにしています。

○文化祭

十一月に山口地区で文化祭が行われ、幼稚園も参加しています。

年少児はダンス、年中・年長児は歌と楽器の演奏などをします。展示ブースでは、園児たちが一生懸命作った作品が、飾られています。小学生の作品と同じ場所に飾ることによって、「こんなの作りたい」「もっとがんばりたい」と、子どもたちの向上心がわいていくように感じました。また、校庭では地域の方たちのいろいろなお店が並びます。出演が終わると、頑張ったご褒美として金券がもらえ、校庭で買い物をするのが子どもたちの楽しみになっています。

もちつき大会
十二月にテラスでもちつき大会が開かれます。保護者は前日に集まり、用具やもち米を洗うなど準備をし、当日も慣れない作業に悪戦苦闘しながら準備を進めます。園児たちはハチマキに法被姿で参加します。地域の方や小学校の五年生がお手伝いに来てくれ、重い杵と一緒に持つてもらい、園児たちは大きいお兄さん・お姉さんの力強さを感じます。ついたお餅を楽しそうに丸め、「わたしはきなこ」「ぼくはさとうとしょうゆ」と、美味しそうにお餅を食べる姿がとても微笑ましいです。また、小学生との会話を通して親睦を深める良い機会となっています。家でもちつきをする機会も少なくなってきました。親子でこのような体験ができて、とても楽しませていただいています。

もらいます。なかなか火がつかず、新聞を入れたり、枯葉を集めて入れてみたり悪戦苦闘し炎が上がったときはとても喜び合いました。大変な思いをして火をつけ焼き芋ができたことが、一つの成功体験になり、良い経験になっています。この行事は、震災でガス・電気がストップした状況の時、火をおこす知識や経験がなく困ることがないように、火をおこす作業や火の危険を学び体験できるイベントとして始めました。

○お茶のお稽古
地域のボランティアの方に講師に来ていただき月に一度、年長児がお茶のお稽古をしています。お茶の点て方やお作法を丁寧に教えていただきます。初めの頃は慣れない手つきでお茶を点てていた子どもたちも、卒園前に保護者を招待する頃には、立派に成長した姿を見ることができ、うれしく思います。

一番小さい台東区の中央部にあります。区内には、公立の幼稚園が十園と公営公設のこども園が一園あります。現在三歳児二十五名、四歳児二十七名、五歳児二十八名の計八十名が在籍しています。「地域の中の幼稚園」という意識が強く、親子代々通園する家庭も少なくありません。また、地域とのつながりが強いのも大正幼稚園の大きな特色で、地域の行事の参加や園児とのふれあいをもつなど教育活動にも生かされています。

○老人ホーム訪問・ふれあい食事会
ふれあい訪問として、近隣の特別養護老人ホームや、デイサービス施設を訪問しクリスマス会を行います。劇を披露したり、プレゼントを交換したりしています。おじいちゃん・おばあちゃんはとても喜んでくださり、毎年園児が来ることをこころまちにしてくれています。また、小学校でも、地域の方や、見守り隊、民生委員の方々の招待してのふれあい食事会の際

二月には、毎年恒例の焼き芋大会があります。小学生の保護者の方々が薪を割り、小学生のお兄さん・お姉さんは、マッチの擦り方や焚火の仕方など大人の人に教えて

地域との交流は、一人の人間形成において欠かせない大切なことだと思います。様々な年代の人たちと関わる中で、人の優しさを感じ人と関わることの楽しさや、思いやりの心、尊敬の心をはぐくんでいくものと思います。また、自分が頑張ったことで相手の方が喜んでくれるという経験を積み重ね、自然に人の為に行動する喜びや楽しさを学んでいくものだと感じています。



宇佐美 正人 PTA会長

提案発表Ⅲ エンジョイ お父さん！

大園男活動を通して

東京都 台東区立大正幼稚園 PTA会長

二 大正幼稚園の教育

大正幼稚園では、平成二十七年・二十八年度の二年間で「幼稚園が地域のセンター的役割をもち、幼稚園・家庭・地域のそれぞれの教育力を向上させていく」ことについて研究をすすめる『みんなで育てる みんなで育つ いきいき元気 大正幼稚園』とテーマを設定して研究発表を行いました。そして、幼稚園、保護者、地域のネットワークを大切に、ともに子育てをしていく「共育」「協育」に視点を当ててきました。

三 PTA活動の概要

- ① 夏の保育参加「大園男との水遊び」
- ② 大園男の座談会
- ③ 運動会サポート
- ④ もちつきサポート など

PTA本部組織は、会長一名、副会長一名、会計二名、庶務二名、学級代表三名で、活動としては、一人一役を基本として約十名程度の本部役員、その組織と並行

はじめに
本園は東京都の中でも、面積が

程度の本部役員、その組織と並行

して、大園男長を筆頭に大園男が活動を行っています。

四 大園男活動のはじまり

大正幼稚園の大園男活動は、平成十五年度に幼稚園横の側溝の掃除をすることから始まったと聞いています。基本的には在園児の父親全員が大園男の男員です。現在はブログを立ち上げ「大正幼稚園大園男」というブログで幼稚園の行事の様子や大園男の活動の様子を配信しています。これは歴代の大園男長が更新します。大正幼稚園のホームページともリンクしていますのでこちらからでも閲覧できます。

お父さんが参加できるとは限りません。参加しているお父さんたちは、全園児のお父さんということに意識してまとなり、子どもたちを積極的に声をかけていき、触れ合う楽しい行事です。(2)もちつきサポーター

これはもちつき大会の様子です。先ほどのビデオにも出てきましたが、毎年、大正幼稚園では、地域、母親、大園男、小学校、幼稚園で行います。参加した大園男の方々は、子どもたちと一緒についた餅を雑煮にして食べて楽しみます。

毎年入園式、新入園児の保護者に「大園男」についての説明を行っています。メールアドレスや連絡先を聞きますが、個人情報のこともありますので、連絡先がもらえるのは全員とは限りません。大園男のことが伝わらないと一部の人がやっているのだなということになります。そこで、印刷物も配布して全家庭にもすべて行き渡るようにし、お母さん方にも大園男の活動が伝わるように心がけています。だれでも初めての事には戸惑いや不安があります。その中で参加している人が楽しく活動すること、次に入ってくる人も活性化しやすい状況が生まれると考えています。大園男ファミリーデーもその一つの例であると思っています。

五 大園男の活動内容

(1)夏の保育参観「大園男との水遊び」

七月はじめの土曜日に行います。大園男ファミリーデーという行事です。お父さんたちが水遊びを基本としてゲームコーナーを準備します。初めて参加するお父さんは戸惑う姿も見られますが、経験のあるお父さんが率先して声掛けをしたり、協力したりして様々なアイデアを出し合えるようになっていきます。必ずしも全員の

六 さいごに

レッツ エンジョイ

お父さん!

それぞれが違った環境のもとで幼稚園の活動に参加します。私自身、PTA活動においても楽しくモットーにやってみよう!

「レッツ エンジョイ お父さん」のお父さんのところを「PTA」に置き換えても同じことが言えると思います。

皆さんもぜひ、お父さん活動やPTA活動に普通に楽しむ気持ちで大事にしていれば次の世代へとつなげていけると思います。

このような機会を与えてくださった、大正幼稚園、園長先生、PTAの皆さんに感謝の気持ちを込めたいと思います。

指導助言 — I

文部科学省 生涯学習政策局社会教育課
地域学校協働推進室長補佐



佐藤 貴大

皆様こんにちは。文部科学省生涯学習政策局社会教育課の佐藤と申します。指導助言と言われたいと思いますが、御紹介いただいた発表の感想のようなもの中心にお話しさせていただきます。

それでは、はじめに、大阪市立西野田幼稚園の取組についてです

が、いろいろ御案内いただいた谷村さんのバイタリティーに圧倒されました。以前のPTAの活動について御苦労されていたところを「とにかく楽しくやる」という点で突破されるということについては非常に素晴らしいと思います。

PTA活動に限らず、何事も楽しくないとは続かないですし、例えば、違う話になりますが、働き方改革などの話においても、多忙なのが悪いのではなく、多忙感を感じるというのが悪いのではないかと話も伺います。義務感とかやらされ感とかで進めていくことは、本当にエネルギーを使い、心身ともに苦勞します。そういった課題に対して、明るくまさに大阪の方々という感じで本当に面白く前を向くエネルギーで取り組まれているのがすごいなと思います。おそらくですが、前の年と同じ取組を今年も来年もやっていくということが続いていくと、うまくいかなくなっていくこともあるのではないかと思います。前例踏襲ではなく、いろいろな企画を話し合い持ち寄られていくことをお伺いしましたので、そのことがうまくいく秘訣かなあと思っております。実際にやっております中で、西野田レンジャーの踊りを運動会で披露するため陰で練習をやられていたたり、迷路づくりに時間がかかったりされていると思うのですが、みなさんお忙しい中で時間を割いて御苦

労のある中で、楽しくやるということをしていてところが本当にいいなと思いました。引き続き御活躍いただければと思います。続きまして、和歌山市立山口幼稚園の取組についてですが、こちら地域との関わりというタイトルにあるように、園、家庭、地域社会が連携を深めるということでお話をいただきました。地域とのつながりをどういった形でもたれているのかというところについて、従来から地域との関係性ができていらつしやるのかと、だからこそいろいろなことができるのかと思っておりますが、幼稚園だけあるいは家庭だけというところだけで子どもたちを育てるというのではなく、社会全体で子どもたちを育てるといことはこれから大切な要素となっていく中で、山口幼稚園ではそういった取組を既にされていると感じました。そういった様々な方々に関わられるというは、子どもたちの人間形成の過程において欠かせない要素になっていくのだと思います。そういったところが素晴らしい取組ではないかと思っております。

最後に、東京都台東区大正幼稚園の取組です。ビデオの御紹介もいただけて、ジャズなども取入れられてかっこいいなあと思っています。たまたま出てきたりして、とても面白いものでした。ビデオの中でも御紹介いただいたように、

指導助言 Ⅱ

全国国公立幼稚園・こども園会長 会長

関 美津子



江戸の文化やお祭りといった活動の紹介をいただいたように、まさにそれが地域と共にある活動であったと思います。文部科学省の方でもそういったPTA活動などを通して大人も子どもも町につながっていく、町の活動を元気にしていくということが方向性としてでてきているので、子どもたちも含めて町に出ていくという活動をされるのは素晴らしいと思います。また、ブログも拝見させていただきました。非常に充実しているのですね。素晴らしいと見ています。そういったビデオとかブログとか最新の機器を使って活動されているところも素晴らしいと思いました。

三つの活動に共通して言えることは、「楽しくやられている」ということかと思いますが、活発に活動されているというには理由があって、こういった取組というのは大変参考になるところがあったのではと思います。まずは、感想ということで、ありがとうございます。



ただ今ご紹介いただきました、全国国公立幼稚園・こども園会長 関 美津子と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。東京都・大阪府・和歌山県の三園のPTAの皆様、素晴らしいご提案発表ありがとうございました。ビデオあり笑いあり、本当に引き込まれる発表だったと思います。昨年もこの場でお話をさせていただきましたが、毎回、発表してくださる方の工夫をされた実践報告に、私たち園長も「頑張らなきゃ」と思いを新たにす次第でございます。

お話をさせていただきます。大変インパクトのある発表でした。昭和四年に地域の方々の寄付で設立され、今なお地域に愛され、歴史を重ねられている幼稚園であることがひしひしと伝わってまいりました。同時に、PTAもそれだけ歴史を積まれてきているということだと思います。保護者の価値観や社会の状況が変わってくるのですが、今の時代に今までのPTAの活動が当てはまるかどうかは多分違ってくることもあると思います。参加者の減少やPTA活動に対して義務的に感じている傾向は、どの地域でも増えているのではないのでしょうか。そのことを踏まえて、楽しくという形では何か変えていこうという意欲、前向きな姿勢に感銘を受けました。「PⅡパツと TⅡ楽しく」そして「AⅡ遊ぶ会」という解釈もとても素敵です。子どもの視点のよいうな形で保護者もPTA活動に参画していく、あまり構えずに本当に「遊んじゃおう」というような感じでしょうか。

子どもたちが自分たちの遊びを変えていく、更に楽しくしていくという工夫をしていく姿、主体性や意欲に影響を与えると思います。そこで攻略されて悔しがるお父さんやお母さんの顔を見ることも、自分たちも遊びでうまくいかないことがあるけど「何か考えていこう」と、切り替えていくことや更に考えていくことにつながるよいモデルになっているのではないかと思います。

子どもたちが自分たちの遊びを変えていく、更に楽しくしていくという工夫をしていく姿、主体性や意欲に影響を与えると思います。そこで攻略されて悔しがるお父さんやお母さんの顔を見ることも、自分たちも遊びでうまくいかないことがあるけど「何か考えていこう」と、切り替えていくことや更に考えていくことにつながるよいモデルになっているのではないかと思います。

れていることを感じて、今度は自分が大人になったときに地域を愛していく。これがとても大切なことで、そのための環境を整えていくことがPTAの役割になると思っています。

イチゴ狩り、泥遊び、田植え、文化祭等、地域とのかかわりを大切にしたたくさんの方々を活動を進めていっています。また、カレーを作ってお世話になっている民生委員の方や小学校の先生をお呼びしたり、カレー作りに厚生保護女性会の方にお手伝いしていただいたりしています。地域の多様な人との関わり、多様な人が地域にはいることを知り、触れ合うことで関わり方を学んで、感謝の気持ちや優しさを繰り返し感じていつて身に付けていくものだと思います。そしてその関わりで学んでいるのは、子どもたちが地域に愛されていることを実感することではありますが、子どもだけではなく、地域の方々にとっても、地域の子どものもととして大切に育てていこうという気持ちを掻き立てるといふか湧かせてくれることで、子どもの笑顔からきくとエネルギーをたくさんもらっていると思います。互いに高め合う、互恵性がある地域との交流連携になっていくと思いますので、引き続き行っていたきたいと思っています。

新しい幼稚園教育要領の方針の

中に、地域のひと・もの・こと、資源を教育活動に活用していくことが求められていることを開会式の時にお話させていただきました。このことは、本当に大切なこととです。ご発表いただいた内容の中にこれらのことが、たくさん取り込まれていました。今回参加された方も、もう一度地域との関係を見直すのに、たくさんの方のヒントをいただいたのではないかと思います。

それから小学校との関わりにおいては、小学校の保護者の方が進められている行事に参加されたり、小学生が園行事に手伝いに来てくれたりなど本当に様々な活動の中で、関わりを深めていることがご報告の中でありました。小学生と触れ合うことで小学生に対する憧れの気持ちや小学校への期待も感じていると思います。また、小学校の保護者の方と幼稚園の保護者の方との関わりも、このようなところから生まれてくるのではないかと思います。引き続き活動の充実を期待しています。

最後に大正幼稚園ですが、私も東京ですがあまりにも地域の様子や地域の方との関わり方が違い、興味深くビデオに見入っていました。資料からお話させていただきました内容は考えてきたのですけれど、素敵なビデオを見せていただき全部とんでしまったという状況です。そしてこのビデオの中に、

園長はじめ職員の方たちがたくさん出てきました。とても嬉しく温かな気持ちになりました。園の職員がいかに地域にとけ込んでいるかということがこのビデオの中からも伝わってまいりました。私も夏休みが明けたら、地域との関係をもう一回見直して行かなければいけないと、教えていただきました。

そして、「大園男」。本当にこのネーミングが素晴らしいと思います。大正幼稚園の在園児のお父さん(男)なので、「大園男」ということですね。これで何をやるのだろう、何をしているのだろうと、期待感や興味が膨らんできました。父親のPTA参画について示していただいた大園男の活動に関して学ばせていただいたこととお話させていただきます。

PTAの会長さんは、父親代表の方から選ばれることが多いかもしれませんが、実際に日常的に活動しているのは母親が多いと思います。その時に父親がどのようになPTAに参加するのかということとは、どこの園においても課題になると思っています。大正幼稚園では、原則的に大園男は全保護者のお父さんが全部男員であるというところの中で、できることを考える、始める、できることで関わっていきましょうという形を工夫したのだと思います。やらされ感がないように、できることで参加をしていくことは大切なことです。

ファミリーデーの中での水遊びはとても楽しく進められていました。初めての参加で戸惑う姿から先輩お父さんの声掛けで、徐々に緊張がほぐれ楽しむ様子が分かりました。

ウォーターホッケーでのお父さんの本気度を出して取り組む姿、嬉しいですね。お母さんの中にも本気度を出す方はたくさんいらっしゃいます。お父さんが本気で水遊びをする姿というのは、またちょっと違う子どもたちの刺激になります。子どもはお父さんが一生懸命試行錯誤をして水路を作ったり、夢中になって遊んだりしている姿をしっかりと見ていて、心の中に残っていくものだと思います。子どもたちの遊びの中にもきっと生かされることと思います。

それから座談会、これは大変難しいです。私も園長の立場として、お父さんたちに座談会に参加してもらえようにするにはどうしたらいいか考えることが多いです。ここでは、園長先生とお母さんたちが仕掛けを作って参加できるようにされたということです。サプライズの会、この仕掛けがすごく大切だと思いますので、私たち園長は頑張りたいと思っています。「レッツ エンジョイ お父さん！」大園男の今後の活躍に期待したいと思っています。

最後になりますが、三園の特色

あるご発表ありがとうございました。課題もありつつ前向きに様々な活動に取り組まれていることが伝わってまいりました。本当に子どもたちのために様々な取組をしていただいていることをありがとうございました。そしてそれらは、子どもたちの健全育成を目指したものです。経験した内容がぜひ幼稚園の教育内容と関連していくように、園長先生方としっかりと話し合いを進め、連携を深めていっていただきたいと思っています。繰り返しになりますが、やはり何事も『楽しく』というのはキーワードだと思っています。ぜひ『楽しく』をキーワードにPTA活動を充実していただきたいと思います。

地域の幼稚園として、地域の幼児教育の中核である国公幼のPTAは、やはり地域の核となることを求められているのではないのでしょうか。幼稚園でのPTAは親育ちの入り口だと思います。幼稚園でPTAの活動をされた方は小学校以降でも活躍されていると聞きしています。ぜひ、PTA幼小接続という形で考えていただけたらありがたいです。ご提案いただいた三園から学ばせていただいたことがたくさんあります。これらの内容をどうぞご参集の皆様、地域に持ち帰り各園の実践に生かしていただきたいと思います。ありがとうございます。

「のびる子どもの睡眠学」

記念講演



講師

中部大学教授
日本睡眠教育機構理事長

宮崎 総一郎氏

みなさんこんにちは。滋賀県にようこそ。

赤ちゃんは、寝ているにもかかわらず、目が動いたりにつこり笑ったり。新生児微動つというのです。寝ているにもかかわらず動くので、動睡眠といえます。これが、大人になると夢と関係するレム睡眠といわれるんです。

もうひとつは、静かに寝ている。動かないでひくひくしないのが、ノンレム睡眠。この二つの睡眠があります。

赤ちゃんの脳は、子宮の間で成長している。寝ている間に夢を見ながら、神経細胞を作っているというのは、睡眠学でいわれています。だから、眠るといことは、とても大切なことなんです。特に子どもにとってはね。生まれたての赤ちゃんの脳は四百グラムくらい。四、五歳で千二百グラムってことは、実は、大人の脳に比べて、九割ができているということなんです。だから、四、五歳までの眠りがとても大事ということなんです。寝ている間に脳は、自分で自分の脳

を作っていくというしくみになっているわけです。

三角形とバツの字と斜め線を書いてみてください。静岡県の浜松市にある幼稚園にお願いして、三歳児十九人に書いてもらったんです。十九人中十七人が三角形を書けと書いても何となく四角を書いている。三歳児は斜め線は書けるんです。斜め線は理解している。脳が発達した段階です。でも、このバツの字もなんとなく自信なさげに十字に書いてしまう。これは、目が悪いわけではないんです。脳がそこで判断できないということなんです。四歳児にも書いてもらったんです。四歳児のうち五人がまだ三角形が書けなくて、四角を書いている。五歳児になると、しっかり自信を持って書いてる。力を入れて、達筆に。だいたいこれが五歳児の平均的な脳の発達段階だろうということなんです。睡眠時間も調べてもらいました。すると、だいたい十二時間とか十一時間とか。だいたい、五歳児に必要な睡眠時間をとっていました。

これを東京都でやったんですね。二百二十三人の保育園児にやってもらったんです。この時に、睡眠が規則正しい子ども。五歳児では、九十パーセントの子が昼寝はしないんですね。十パーセントくらいしか昼寝はしないんです。これは、東京の上野でやったものから、どうしても家庭の都合で夜遅くなったから朝なかなか起きられない。遅寝、遅起き、ついつい昼寝をしてしまうというのを悪い例で調べている。そういう人が、三十四人いたということなんです。五歳児らしい睡眠をとっている九割が昼寝をしない子。そうすると睡眠の規則正しい、早寝早起ができていない子は、ちゃんと三角形が書けているんです。五歳児ですよ。しかし、書けない子も十二パーセントくらいいますけど、正常な範囲です。遅寝遅起きで、昼寝をしているような乱れたパターンの子どもは四十四パーセント。自信がなくて書けていない。静岡県では、全員書けていたのに、東京都では、まだ五歳児の脳の発達段階になっていないんじゃないかということ、危機感を抱いているんです。

今、よく言われているのは、早寝早起き。今日はちょっと早く、いつも寝不足だから十時半頃に寝てもいいと言われたら寝られますか？「寝られません」これが正常

な反応なんです。早寝ができない。寝る一時間前とか二時間前は、脳の温度が一番高いので寝られないんです。人間は遅くするのは簡単なんです。しかし、早くはできないんです。子どもに早く寝なさいといっても無理なんです。脳の温度が高いから、リズムを早くはできないんです。早起き、早寝なんです。早寝ができないんだったら、早く起せば、人間の脳は十五時間くらい経てば脳は疲れてくるから、朝起きた時刻で、寝る時刻が決まるんです。そうだよつぱり、早起きすると早寝ができるということなんです。

今から脳を守り修復する、脳を賢くするという話をします。これは、うちの娘が小学校四年生の時にブライントタッチ。見ないで一、四、二、三、一、と打つ練習をしたんです。午前十時ごろに十二分間やるわけですね。そうすると、朝の十時にテストしてみると、二十一回くらい。夜の十時にテストしてみると、二十二回くらい。これは、決して上手くなっているんじゃないんです。学問的には上手くなっているとはいえないんです。しかし、不思議なことに、一晩眠った翌朝、手が勝手に動きます。二倍以上、上手くなっているんです。ということ、寝ている間に記憶を整理する。手続き記憶といいまして、言葉では言い表せないスケートを滑るとか、ピアノを弾くとか脳の神経回路。一晩眠ると確実に向上する。顕微鏡で脳の中が見えるようになりました。神経細胞は、約一千億。一千億という数は、銀河系の星の数が、一千億。そのくらいのコンピュータがみなさんの頭の中に入っているんです。その先のほうにシナプスと言ってですね、太くなると、だんごが二つくっついたみたいになってるんです。神経細胞が太ければ太いほど電気が流れやすくなって、太くなっていくわけです。だから、必要な記憶は太くなります。しかし、皆さんの頭の中は、骨で囲いをされていますから、いらぬ記憶はこうして消えていくんです。ただ、必要な記憶だけ、寝ている間に思い出して太くなっていくし、いらぬ記憶はどんどん消すということなんです。記憶をためるだけだとパンクしちゃいます。みなさん、睡眠不足だと、翌日、頭がボーっとするというのは、頭の中で記憶の容量がいっぱいで、回復していないからなんです。私たちは、最初の十六分くらいで寝る。すぐに寝られるというのも病気なんです。というか、睡眠不足なんです。どこでもすぐ五分くらいで寝られると自慢している人は、健康じゃないんです。健康な人は、だいたい二十分から三十

す。四十六分ぐらいで一番深い眠りになります。一時間経って、ここで、いびきが聞こえてきたら、泥棒に入ると気づきません。しかし、二時間くらい経って一回夢を見て、その時に目が覚めてどうしようなんて思わなくていいんです。これは、こういうリズムなんです。その後も、寝てるって一番危ないんです。身の安全を確認するために起きる。だから、猫なんかは、一つのサイクルが人間では八十分から百分くらいだけど、猫は二十分くらいです。

人間は寝て、十時から十二時一時までは、あまり夢を見ないで深く、ノンレム睡眠といって神経回路を修復する睡眠がある。その時に、物覚えができる。一夜漬けて夢を多く見る時に思いつく。一夜漬けては最初三時間。だから結局、文武両道になるためには、七時間。子どもだったら、八時間、九時間は寝ないと文武両道にはならないんです。夜は寝ないとだめなんです。脳は寝るたびに賢くなるっていうすごいことをやっているんです。一晩中勉強してもだめなんです。寝てる間に整理をして、記憶に残す。いらない記憶は消していくんです。睡眠不足では、決していい成績はとれないということが今の話です。

ある程度あきらめて寝れば、寝てる間に脳は自分で考えているんです。脳は寝てるんじゃないんです。脳は二十パーセントくらいグルコース(栄養)を使わなくなりませんが、八十パーセントは起きています。なんかあったらすぐに逃げなくちゃならないから。寝ている間にあまり頭を使わないときに、こうやって記憶をよくしているんです。じゃあ、何時間寝ればいいのか。

人間の子どもの赤ちゃん。基礎代謝は結構高いんです。座ってても静かにしていてもエネルギーがいる。お腹がすいてくる。だから、睡眠時間が十時間以上。新生児の睡眠時間は十四時間以上。人間、年をとってくると、基礎代謝が低くなる。睡眠時間は三分の一くらいになる。

朝にたまごと納豆を食べて、牛乳を飲むと、太陽の光を浴びるとセロトニンになる。朝ごはんを食べないと元気がないというのはこういうことなんです。反対で、光がなくなったらブルーライトを浴びなければ、夜に蛍光灯を浴びなければ、自然にメラトニンに変わってよく眠れるんです。朝ごはんは決まるんです。寝られるかどうか。朝起きて、私たちの脳は、十五時間後に眠くなるんです。朝起きた時刻で、寝る時刻も決まっているし、夜は暗くなると、自然に昼間、元気なホルモンもメラトニンになる。よく寝たら、元気になるんです。

人間は寝て、十時から十二時一時までは、あまり夢を見ないで深く、ノンレム睡眠といって神経回路を修復する睡眠がある。その時に、物覚えができる。一夜漬けて夢を多く見る時に思いつく。一夜漬けては最初三時間。だから結局、文武両道になるためには、七時間。子どもだったら、八時間、九時間は寝ないと文武両道にはならないんです。夜は寝ないとだめなんです。脳は寝るたびに賢くなるっていうすごいことをやっているんです。一晩中勉強してもだめなんです。寝てる間に整理をして、記憶に残す。いらない記憶は消していくんです。睡眠不足では、決していい成績はとれないということが今の話です。

ある程度あきらめて寝れば、寝てる間に脳は自分で考えているんです。脳は寝てるんじゃないんです。脳は二十パーセントくらいグルコース(栄養)を使わなくなりませんが、八十パーセントは起きています。なんかあったらすぐに逃げなくちゃならないから。寝ている間にあまり頭を使わないときに、こうやって記憶をよくしているんです。じゃあ、何時間寝ればいいのか。

人間の子どもの赤ちゃん。基礎代謝は結構高いんです。座ってても静かにしていてもエネルギーがいる。お腹がすいてくる。だから、睡眠時間が十時間以上。新生児の睡眠時間は十四時間以上。人間、年をとってくると、基礎代謝が低くなる。睡眠時間は三分の一くらいになる。

朝の光はとても大事です。カーテンを十センチ開けて眠るとよいと言われてます。カーテンがないのが一番いいんです。青い光は、まぶたの上から網膜の奥まで届きますから。セロトニン神経を使つて、朝だから目を覚ましなさいと言おう。お腹のほうに刺激がいつて、光を浴びていると、心拍数が増えたりして目覚めの準備をしてくれます。最後は、抗重力。重力に対して目を開ける。朝の光を浴びていると目覚めがいい。朝ごはんをおいしく食べられる。光はリズムの調整に関係する。私たちの時計は遊びがあつて、二十四・二時間とちょっと長めなんです。時計がなくて、勝手に寝

たり起きたりしていると、二十五時間になつてしまいますから、十二日経つと昼夜逆転になります。朝起きて、ポインントは、光じゃなくて二時間以内。できれば、早朝九時頃までに光を浴びると、二十四時間周期になる。昼ごろ浴びても遅いんです。

ある程度あきらめて寝れば、寝てる間に脳は自分で考えているんです。脳は寝てるんじゃないんです。脳は二十パーセントくらいグルコース(栄養)を使わなくなりませんが、八十パーセントは起きています。なんかあったらすぐに逃げなくちゃならないから。寝ている間にあまり頭を使わないときに、こうやって記憶をよくしているんです。じゃあ、何時間寝ればいいのか。

人間の子どもの赤ちゃん。基礎代謝は結構高いんです。座ってても静かにしていてもエネルギーがいる。お腹がすいてくる。だから、睡眠時間が十時間以上。新生児の睡眠時間は十四時間以上。人間、年をとってくると、基礎代謝が低くなる。睡眠時間は三分の一くらいになる。

朝の光はとても大事です。カーテンを十センチ開けて眠るとよいと言われてます。カーテンがないのが一番いいんです。青い光は、まぶたの上から網膜の奥まで届きますから。セロトニン神経を使つて、朝だから目を覚ましなさいと言おう。お腹のほうに刺激がいつて、光を浴びていると、心拍数が増えたりして目覚めの準備をしてくれます。最後は、抗重力。重力に対して目を開ける。朝の光を浴びていると目覚めがいい。朝ごはんをおいしく食べられる。光はリズムの調整に関係する。私たちの時計は遊びがあつて、二十四・二時間とちょっと長めなんです。時計がなくて、勝手に寝

たり起きたりしていると、二十五時間になつてしまいますから、十二日経つと昼夜逆転になります。朝起きて、ポインントは、光じゃなくて二時間以内。できれば、早朝九時頃までに光を浴びると、二十四時間周期になる。昼ごろ浴びても遅いんです。

したら完璧です。ぜひ、子どものときから認知症予防をしてください。なぜかという十年後には五人に一人が認知症と言われてます。滋賀県の中学校に聞いたんです。二百七十四人に聞いたんです。ちょうど九割ですよ。眠たい、あくびがでる、横になりたい。みんな睡眠不足。今、中学生。高校生一番多いです。これは、人間の実際じゃなく、ねずみの実験ですけども、睡眠時間を十二時間を六時間にして三週間続ける。アミロイドベータっていう脳神経細胞を殺してしまうような老廃物がこんなにたまってしまふんです。睡眠不足が直接脳に影を残すということが証明されているわけです。じゃあ、脳の中のアミロイドベータっていうのが最近最も新しいデータですけども、私たちは寝てるたびに、脳の中に脳脊髄液が流れて脳の細胞が二十パーセント低下して、隙間が開いて、そこに脳脊髄液が流れて、老廃物を洗い流してくれている。これは、顕微鏡で十分見られる。逆に人間の脳は、それが、寝ている間は二倍以上。これを、寝ている時に動脈から静脈がありますけれども、脳の中です。動脈の中は赤血球流れていますね。この、脳脊髄液が、動脈周辺から染み出して、こういう老廃物を引っ掛けて、静脈まで運んでいく。寝てい



たり起きたりしていると、二十五時間になつてしまいますから、十二日経つと昼夜逆転になります。朝起きて、ポインントは、光じゃなくて二時間以内。できれば、早朝九時頃までに光を浴びると、二十四時間周期になる。昼ごろ浴びても遅いんです。

平成二十九年度 表敬訪問報告

る間は、しやすいわけです。昼間はこんなことできないんです。寝ている間に、自分たちの脳を掃除してくれている。認知症になる前の二十年前からアミロイドベータがたまっていると皆さんご存知でしょうけど、軽度認知障害になったときにはすでに遅いんです。子どものときからいい睡眠習慣を。今からでも遅くないですよ。

今日のまとめ。朝起きて、光を浴びる。すると、セラトニンがきます。朝ごはん大事です。セラトニンができて、暗くなるとメラトニンに変わります。ここで、蛍光灯とか青い光をあまり浴びない。携帯とかテレビとかは光が悪いんじゃないんです。携帯とかテレビは、動いて脳波を攻撃するから眠れないんです。

眠ると賢くなるし、将来の認知症予防になる。だから、皆さんが今の子どもたちに介護してもらうためには、元気な子を育てなければならぬですよ。睡眠だけは十分にとらせてください。寝なきやだめなんですよ。

早起きすると早寝ができる。カーテンを開けておくとよい。夜は暗くして快眠モード。五人の人に伝えてください。いろいろな本も出しています。インターネットで私の名前で検索してみてください。勉強会も全国でやっていますから、参加してください。

平成二十九年七月六日全幼P 猪木会長、関全国国公立幼稚園・

こども園園長会会長、同事務局長、全幼P副会長三名が文部科学省へ表敬訪問を行った。そして、国公立幼稚園・こども園の実情をお話しさせていただいたり、諸問題につきましてお願いをしたりしました。(ここに要望書の全文を載せる)

要 望 事 項

一 国策として、幼児教育振興・充実を図っていただきたい。

公立幼稚園・こども園未設置市町村が、全国で九百二十四(五十三%)あります。これら未設置市町村を

解消し、幼児教育を希望するすべての幼児が完全に就園できるように、次の項目を強く要望します。

- (1) 市区町村に対する公立幼稚園・こども園設置義務化のための法整備
- (2) 三年保育の実施拡大
- (3) 財政難を理由にした幼稚園の統廃合抑制・民営化の阻止
- (4) 幼稚園・こども園における

子育て支援及び預かり保育のための財政措置

(5) 子ども・子育て支援新制度における認定こども園の推進に対し、従来の幼児教育の質の高さの継承

二 幼児教育環境の整備・拡充を図っていただきたい。

公立幼稚園・こども園は小・中・高等学校と教育環境において様々な格差があります。幼児教育充実のため、人的、物的、及び、制度的環境の整備拡充がなされるよう、次の項目について特段のご高配をお願いいたします。

- (1) 専任園長、副園長・教頭、養護教諭、事務職員の配置
- (2) 発達の特性に応じたきめ細やかな指導をするための正規教員数の確保
- (3) 都道府県及び市区町村教育委員会における幼児教育専門の指導主事の配置
- (4) 安全管理・危機管理の人員・施設・設備等の改善
- (5) 幼稚園・こども園施設の耐震化推進

三 国公立幼稚園・こども園教員の職責にふさわしい処遇を図っていただきたい。

人間形成の基礎を培う重要な幼児期の教育にかかわる幼稚園・こども園教員待遇改善と、資質向上を目指し、次の項目実現のための制度を確立してください。

- (1) 幼稚園・こども園教員に対する教育職俸給表の適用
- (2) ライフステージに応じた研修経費の確保
- (3) 正規雇用の促進

平成二十九年度 理事会報告

第一回

期日 八月五日(土)

場所 北ビワコホテルグライエ

母なるびわ湖を有する自然豊かな滋賀の地において、各県の代表による熱気あふれる理事会が行われた。

猪木会長の挨拶の後、岡崎大会運営委員長から大会の概要説明、国幼園会長の挨拶の後、平成二十八年年度会務・決算報告、本年度活動方針、事業計画・予算報告、平成二十九年度の要望、文部科学大臣表彰、全幼P会長表彰、会長感謝状贈呈について報告をした。平成三十年度徳島大会山

崎運営委員長より開催地の取組の説明があった。また平成三十一年度茨城大会木村副実行委員長の挨拶があった。大会開催県は平成三十四年度、研究協議提案県は平成三十二年度まで決定済の報告があった。

役員選考については、各プロックから選考委員を選出し、委員により役員が選出され、理事会で報告された。

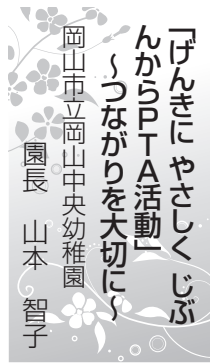
第二回
期日 十一月十日(金)
場所 国立オリンピック記念青少年総合センター

猪木会長、関国幼園長会長挨拶の後、滋賀大会松山副実行委員長からのお礼の挨拶があり、大会が成功裏に終わったことを確認した。

続いて、平成三十年度の活動方針・事業計画案・徳島大会について、要望内容等を協議した。また、今後の大会開催県、研究協議提案県の確認をした。その後、文部科学省初等中等教育局幼児教育課 本田史子 子育て支援指導官の話を拝聴した。

第三回
期日 二月二十三日(金)
場所 国立オリンピック記念青少年総合センター(開催予定)

おめでとう



本園は、岡山を代表する岡山城や岡山後楽園の近くに位置し、明治二十一年に創立され、時代の流れによって五つの幼稚園が統廃合してできた幼稚園です。園児数は三十五名と少人数ですが、PTAはまとまりがよく、全保護者が一人一役をもって、園の教職員と協力して活動しており、和やかな雰囲気があるPTAです。

平成三十年度からは、保育園と統合し、認定こども園へと移行しますが、幼稚園の長い歴史とともに、様々な「つながり」を大切に歩んできたことが評価され、平成二十九年度優秀PTA文部科学大臣表彰をいただきました。

このような素晴らしい賞を受賞することができたのは、決して本園の力だけではありません。PTAとしてあるべき姿を示し、大きな安心を与えてくださる、猪木

会長様はじめ全国国公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会の存在や、現在のPTAへと道をつくってくださった先輩の方々、また、本園をいつも温かく見守ってくださる地域・団体・行政など、本当に多くの方のご支援があつてこそだと、心より感謝しております。

本園PTAも、未来へ向かう子どもたちと同じように、幼稚園教育目標「げんきにやさしくじぶんから」を合言葉に頑張っています。園・家庭・地域・行政と協力し、子どもたちの幸せを願いながら、無理なく、楽しく、「つながり」を大切にPTA活動を心掛け、助け合いながら進めています。

「げんきに」～地域・関係団体と「つながりを生かして」

「地球を守ろう!」と地域の企業や関係団体と協力して「緑のカーテン」作りや太陽ソーラーで鳴く虫の工作などを通して、子どもたちと一緒に元気にエコ活動に協力しています。

「やさしく」～世界へつなげる活動を通して」

アジアの子どもたちの学習支援のため「書き損じハガキ収集」を行っています

幼稚園PTA単独ではなく、中学校区の幼小中で協力しながら活動しています。地域のふれあい祭りでは生徒会の中学生と幼稚園児がペアになり、地域住民へ啓発チラシを配布しました。PTAのボランティア活動を通して、子どもたちもボランティアに興味をもち、広く世界を見るやさしい目を持っていきます。

「じぶんから」～人・もの・ことへつなげる力を高めるPTA」

毎年恒例のPTA秋祭りは全員で協力し、様々な人・もの・こと



緑のカーテンでCO2削減へ!

また、地域の公共交通機関の協力し、関と協力し、年長児が郷土の備前焼マグカップを路面電車の中で作成し、保護者へプレゼントしました。PTAとして子どもたちの頑張りを認めたり、家庭でも一緒に喜んだりすることを大切にしています。

また、「つながり」ながら、主体的に活動を進めています。遊戯室には手作りのもの「巨大段ボール迷路」が登場し、子どもたちは迷路に迷ってゴールしました。

秋祭りを通して、大人が自分から出番をつくり、大人が頑張ることを示すよい機会となりました。



ご協力お願ひしませう!

「終わりに」

認定こども園への移行に向かっていく本園では、「こたえのないものに、今できる最善のこたえを見つけていくこと」の大切さを学んだPTA活動であったと思えます。主となり活動を支えてきた役員は、子どもたちの笑顔に励まされ、子どもの喜びを力にかなえながら、新たな課題にも、笑顔を忘れず取り組んできました。

また、全国国公立幼稚園・こども園PTA全国大会滋賀大会へ参加し、全国の様々な取組を学び、大きなパワーや出会いを頂いたことも成果でした。

今後は、認定こども園でも、幼稚園で培ったPTAの教育力を忘れず、子どもたちとともに「つながり」を大切に



笑顔でつながるPTA役員一同

この度、平成二十九年度優良PTA文部科学大臣表彰をいただきました。これもひとえに、歴代の会長を初めとするPTAの皆様や先生方の絶え間ないご努力と、地域の皆様のおたたくご支援の賜物であると思います。ありがとうございます。

本園では、「健康な心と体をはぐくみ、生き生きと遊ぶたくましい子どもを育てる」という教育目標に基づき、先生方のあたたかみのかかりの中で、五十一名の子どもたちが毎日元気いっぱい生活しています。季節ごとに行事食の会食を行ったり、地域の方を先生にお招きして野菜を育てたりといった活動もしています。近隣には丹波自然運動公園があり、自然の中での遊びを十分に楽しんでいます。

このような子どもたちの生き生きとした活動の輪を、先生方と子どもたちだけでなく、我々保護者も一体となって広げることができるよう、毎年のPTA活動を



PTA渾身の作!巨大迷路!

「親子のふれあいと保護者のかかわりを広げるPTA活動をめざして」

京丹波町立須知幼稚園
PTA会長 神谷 宣行

にする心で、PTA活動を明るく推進していきたいと思ひます。

行っています。今年度は、「幼稚園や家庭での親子のふれあい」「会員相互の親睦」「保護者としての研修」の三点を活動方針として掲げました。そして、一つ一つの活動を通して、家庭・地域・幼稚園のつながりを深め、親子の絆を深めていくことができればと思います。日々の取組を進めているところですが、

PTA役員は、会長、副会長、会計、学級委員、評議員の、計二十名です。学級委員は、学級での様々な活動を計画し、実践しています。それぞれの地区から選出される評議員は、研修委員、編集委員、子育て委員に分かれて活動をしています。総会員数五十六名という少ない人数ではありますが、役員全体の協力体制のもとで、できる範囲で無理なく活動を進められるようにしています。その活動の中で、本園PTAが特に力を入れているものをご紹介します。

アイデアいっぱい、お楽しみ会

年に一度、PTA主催で夏休みを実施する「お楽しみ会」は、子どもたちが楽しみにしている行事です。本部役員や学級委員を中心に遊びのブースを作り、子どもたちがそれを一つずつ回ります。段ボール迷路、ボーリング、輪投げ、金魚すくい、うちわ作りなど、毎



夏のお楽しみ参観日

「外部講師をお招きして」

警察の方をお招きして行う親子交通安全教室では、子どもたちが交通安全について学ぶとともに、我々保護者も自分たちの責務を実感しました。地元を拠点にし、幅広く活動をしておられる「丹波八坂太鼓保存会」の方々をお招きして行う「太鼓で遊ぼう」では、親

子で勇壮な太鼓の響きを味わうことができました。講師をお招きして行う「子育て講演会」では、子どもたちの体と心を豊かに育むための新しい視点に気付くことができました。いろいろな方をお招きした活動では、いつも新しい学びと感動を味わうことができます。その活動に一人でも多くの保護者

が参加できるように、園の参観日と日程を合わせて計画を立てています。そしてその活動を、家庭での親子のふれあいの一つのきっかけとすることができればと考えています。



太鼓と遊ぼう

「子どもの喜ぶ顔を思い浮かべて」

子育て委員会では、子どもたちの園での生活がこれまで以上に充実したものになるように、園と連携して取組を進めています。遊び道具の製作・補修はその活動の一つです。子どもたちが全力で遊びに向かうことができるように、様々な遊び道具をこれまでに製作・補修してきました。昨年度は、傷んでいたままごと用の衣装を直し、牛乳パックで椅子を作りました。

今年度は、外遊びで使える木の椅子と机を作りました。大変な作業ですが、保護者同士で協力して頑張ることで、一体感を感じる活動でもあります。参観日などで園に行き、子どもたちがその遊び道具を使って元気いっぱい遊んでいるのを見た時には、頑張ったよかったです。いろいろな気持ちもなりました。



ままごと用机と椅子製作

「愛情あふれる会報『ひよこ』」

子どもたちに対する「今」の思いを書き残し、また振り返ることができるように、編集委員会では毎年、会報「ひよこ」の作成に取り組んでいます。一年間を振り返っての思い出や子どもへのメッセージを、B5サイズの用紙に一人一人の保護者が書き、三クラス分を一冊の冊子にしています。「去年はどんなことを書いたかな。」と、過去の冊子を読み返すと、懐かしさとともに我が子の成長を感じます。また、他の保護者の書いた文章を読んだ時には、あたたかい思いに触れ、思わず笑顔が広がってきます。これまでに作成されたたくさんさんの冊子一つ一つは、これまでのPTA会員一人一人の愛情でいっぱいです。

「知りたい」に答える子育てアンケート

園の子どもたちが帰宅してからどのように過ごしているのかを知って、参考にしたいという声が上がります。研修委員会が、「園からの帰宅後の過ごし方について」というテーマでアンケート調査を行いました。そして、結果の報告をもとに、それぞれの家庭がこれからの家庭での生活について考えることができました。家庭での生活での悩みや疑問はたくさんあります。「他の家ではどうしているん

「共に手を取り学び合うPTA活動」

館林市立杉並幼稚園
園長 福田 奈々子

この度、杉並幼稚園が平成二十九年年度優良PTA文部科学大臣表彰をいただきました。この表彰は子育てや幼稚園教育の重要性



PTA会長さんによる絵本の読み聞かせ

を踏まえ、PTA活動にご指導・ご理解をいただいた県・市教委、また歴代PTA、諸先生方の取組の賜物と深く感謝いたします。

さて、群馬県には昭和二十二年、子どもたちを元気づけようと作られた、群馬の子どもならみな知っている「上毛かるた」があります。群馬を詠んだ読み札の中に、「つる舞う形の群馬県」という札があります。その読み札のごとく、群馬県は鶴が天空を舞う形をしています。その鶴のくちばしの部分に館林市があります。館林市は、かるたの中で「花山公園つじの名所」とうたわれ、世界一のつじを誇っています。また暑さ日本ということ、近年新聞やテレビで話題になっているところです。

杉並幼稚園は館林市の南に位置し、園児数七十七名、三年保育、四クラスの幼稚園です。イチヨウ並木と思いい切り遊べる広い庭、豊かな緑が園の特徴です。園児たちは四季折々の自然に触れながら園生活を送っています。

本園のPTAの組織は、本部役員十一名、クラス役員十二名で構成されています。特色として、母親だけでなく父親も積極的に役員として様々なPTA活動に取り組んでいます。また、シダーレンジャーズ(杉の警備隊)というお父さんの組織もあり、様々な行事や活動に会員のお父さんが参加

し、お父さんならではの良さや力を発揮してくれています。その活動の一端を紹介したいと思います。

【家庭教育学級】

新学期に学級生を募集し、組織と班作りをして学級長を中心に一年間の活動内容を考えていきまします。学級生は与えられた活動に参加するのはなく、班活動を通して主体的に運営や役割を担い、講座の立案から終了まですべて協力し班で責任をもって取り組みます。その中で、主体的に学ぶ体験、協力して取り組む体験、学んだことを子育てや家庭に生かす体験などを積み重ね、自分自身を高めていっています。



家庭学級「食育講座」

【七夕・夏祭り】

本部役員さんは花神輿作り・短冊の飾りつけ・食事の担当です。クラス役員さんたちは模擬店の担当として、ゲーム屋・くじ引き屋、お面屋、宝物すくい屋、迷路などの看板作りから開店までの準備をします。当日は売り子になり、お祭りの雰囲気盛り上げます。シダーレンジャーズは、平成二十五年度シダーレンジャーズが製作し

代々引き継いできた本神輿の組立・駐車場誘導・園内警備・迷路作り・花火担当です。そして当

日は園児・役員さん・先生方・おうちの方・地域の方、みんなの気持ちと力が一つに合わさった七夕・夏祭りが賑やかに行われます。フィナーレ



七夕・夏祭り「神輿担ぎ」

はキラキラ光りながら落ちていくナイアガラの滝や夜空を彩る打ち上げ花火。たくさんの方の拍手とともにみんなで楽しんだ七夕・夏祭りは、終わります。片付けは役員以外のおうちの方も率先して手伝ってくださり、楽しかった七夕・夏祭りは幕を閉じます。終わった後には、みんなで心を合わせて取り組んだ充実感やみんなで楽しさを共有できた満足感を味わえる心に残る七夕・夏祭りです。

緑豊かな杉並幼稚園を、安全できれいに維持管理していくことはたくさんの方の時間と力が必要です。そこで役員さんや全保護者に協力していただき、園庭整備や落ち葉掃きのお手伝いをお願いしています。垣根の剪定や枝除けはシダーレンジャーズと先生方で毎年、夏休み前に行います。熱中症に気を付けて梅干を食べたり、水分を補給したりしながらみんなで気持ちいい汗をかきます。園庭や畑の草取り、池の清掃、駐車場の草取り等は全保護者で行います。秋になると、黄色の絨毯のよう

なイチヨウ並木の落ち葉清掃を保護者と幼児たちでクラスごとに行います。きれいに整った園庭や並木道を見るとすがすがしく心まですっきり整います。イチヨウの季節にバケツとトンガを持ってみんなで拾ったギンナンはきれいに洗って持って帰ります。幼稚園のギンナンの味は格別です。きつと幼児にとつて思い

出の味になることでしょう。(写真③園庭整備「垣根の剪定」)

【運動会】

運動会は我が子の活躍を応援しながら、役員さんが放送・来賓接待・他の学年の用具の出し入れ・補助などの手伝いを先生方と一緒に、運動会の進行を陰で支えてくれます。幼稚園の広い園庭をいっぱい使って、かけっこ・親子競技・全園児で取り組む表現・親子ダンス・おじいちゃんおばあちゃんのお玉入れ・入園前親子のかけっこ・ご来賓の買い物競争・クラス対抗保護者綱引き・年長児の三色リレー・卒園児の一年生競争など、運動会に参加した人がみな

のびのびと体を動かすことを楽しめる運動会です。役員さんと先生や子どもたちで毎年工夫を凝らす開会式

を行います。きれいに整った園庭や並木道を見るとすがすがしく心まですっきり整います。イチヨウの季節にバケツとトンガを持ってみんなで拾ったギンナンはきれいに洗って持って帰ります。幼稚園のギンナンの味は格別です。きつと幼児にとつて思い出の味になること



園庭整備「垣根の選定」

【絵本の読み聞かせ】

保護者が我が子のクラスに入り、季節の本・おすすめの本・お気に入りの本など、保護者のセレクトした本をクラスの幼児に読み聞かせします。「○○ちゃんのお母さんが来るよ」「今日は、私のお父さんが来るよ」。○○の本を読んでくれるよ」と、幼児はその時間を楽しみにしています。クラス

のみんなの前で読む体験はおうちの人の人にとつても、ドキドキ感を体験したり、ありがたうと言われた時のうれしさを味わったり、一生懸命選んで読んで本は保護者にとつても我が子にとつても、忘れられない一冊になります。

保護者にとり、幼稚園の様々なPTA活動で得た経験・学び・人間関係は、幼稚園卒園と共に終わるものではなく、小学校以降の子育てや自身の成長のための土台となります。これからも幼児の豊かな成長のために、幼稚園と保護者が共に手を取り学び合いPTA活動に取り組み、鶴のように大空に羽ばたいていく子どもたちを育てていきたいと思います。



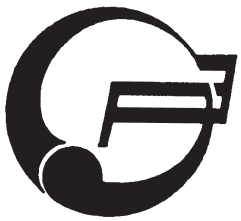
絵本の読み聞かせ「おちばきょうそう」

【終わりに】

保護者にとり、幼稚園の様々なPTA活動で得た経験・学び・人間関係は、幼稚園卒園と共に終わるものではなく、小学校以降の子育てや自身の成長のための土台となります。これからも幼児の豊かな成長のために、幼稚園と保護者が共に手を取り学び合いPTA活動に取り組み、鶴のように大空に羽ばたいていく子どもたちを育てていきたいと思います。



運動会「親子騎馬戦」



全国国公立幼稚園・こども園
PTA連絡協議会章

第56回全国国公立幼稚園・こども園PTA全国大会

徳島大会ご案内

大会主題 **あつまれ わになれ 阿波徳島で**
～子どもの明日 語らにゃそんそん～

期日 平成30年8月3日(金)・4日(土)
場所 ホテルクレメント徳島(役員会・理事会・情報交流会)
アスティとくしま(総会・大会)



徳島県 県章

第五十六回全国国公立幼稚園・こども園 PTA全国大会徳島大会

徳島大会運営委員長 山崎 篤史

第五十六回全国国公立幼稚園・こども園全国大会徳島大会運営委員長 山崎篤史と申します。

日々、子育てや幼児教育の現場にて子どもたちのために奮闘をされておられる皆様、心からの労いと御礼を申し上げます。

変化の激しいこの時代において、最も深刻な課題の一つとされているのが少子化問題です。現在の人口動態統計を取り始めてより出生数が最多だった年は、昭和二十四年で約二七〇万人。それが、平成二十九年には過去最低の約九十五万人へと減少しています。実に、ピーク時の約三分の一にまで減少しているのです。

物事には善し悪しがありますが、家族の継承、地域・文化の継承、国の継承は、子どもたちへと受け継がれていくものですので、今まで当たり前のように在ったものが無くなるというリスクは間違なく増加しています。

平成二十九年夏、安倍総理は、私たち子育て世代に向き合い「幼児教育の無償化」を提言されました。子育てへの投資は、将来的に

二兆円という巨額の財源を充てて支えるべき分野と位置付けられました。少子高齢化や人口減少の状況が進行し、税収が先細りしていくと考えられる中、巨額の財源を割り当てられるということは、正に必要とされる分野であるからです。

私たち保護者は、必要とされる分野に身を置きながらも、子育て・教育に関してはスタートラインに立った子どもたちと同列にいます。保護者として子育ての方法等、子どもたちとどのように接していけば良いのか、親育ちの場である学びの機会を作り参加しなければなりません。

先生方は、必要とされる分野に身を置きながらも、日々現場の仕事に追われ、人的ネットワークが限られています。幼児教育の現場をより円滑に運営していくためには、家庭・地域・行政執行部等、たくさんの協力者が必要です。

この保護者の声や先生の声に込め、子どもたちのために組織されたのがPTAです。私たちの参加するPTAは、正

に必要であるから発祥し、時代背景から鑑みても、今後よりいっそう必要性が高まっていく組織です。

そして本組織において昨年は、岡崎運営委員長をはじめとする滋賀大会とともに作っていただいたお仲間の皆様のご尽力により、第五十五回大会が開催され、その優しい雰囲気の子育て・親育ちの温かさを学ぶことができました。徳島から参加した徳島大会準備委員の仲間たちも、次は自分たちの番だと身の引き締まる機会を頂戴いたしました。

さて、平成三十年八月三日(金)・四日(土)開催となります。徳島大会では、主題を「あつまれ わになれ 阿波徳島で」子どもたちの明日 語らにゃそんそん」とし、全国のお仲間の皆様の明るくお接待できるように、準備に奔走しているところです。

「阿波藍(愛)」の力で、全国の子どもたちに愛が届けられますように心から願いつつ、皆様のご参加を、徳島の仲間とともに心待ちにしております。

平成二十九年度 顧問・役員のご紹介

顧問

- 高橋 勝明 (元全幼P会長)
- 萬里小路 伸一郎 (前全幼P会長)
- 上枝 秀則 (元全幼P副会長)
- 今井 昇 (元全幼P副会長)
- 太田 禎彦 (前全幼P副会長)
- 板東 優子 (元全幼P事務局長)
- 中村 初美 (元全幼P事務局長)
- 新司 英子 (前全幼P事務局長)
- 磯部 頼子 (元全国国公立幼稚園長会会長)
- 酒井 幸子 (元全国国公立幼稚園長会会長)
- 齊藤美代子 (元全国国公立幼稚園長会会長)
- 岡上 直子 (元全国国公立幼稚園長会会長)
- 池田多津美 (元全国国公立幼稚園長会会長)
- 荒木 尚子 (元全国国公立幼稚園長会会長)
- 岩城眞佐子 (前園企幼幼種こども園長会長)
- 関 美津子 (全国幼幼種こども園長会長)
- 大木 英雄 (元園企幼幼種こども園長会長)
- 深町 芳弘 (元園企幼幼種こども園長会長)
- 楚阪 博 (前園企幼幼種こども園長会長)
- 佐藤 忍 (全国幼幼種こども園長事務局長)

役員

- 会長 猪木 直樹 (岡山)
- 副会長 大関 敏寛 (秋田)
- 中川 博喜 (東京)
- 吉田 尚 (愛知)
- 岡崎 正彦 (滋賀)
- 野々村卓也 (鳥根)
- 山崎 篤史 (徳島)
- 清松 督雄 (大分)
- 新山 裕之 (園長会)
- 中尾 史子 (熊本)
- 山岸 芳子 (滋賀)
- 広瀬 泰弘 (徳島)

事務局

- 事務局長 角屋 純子
- 書記 神崎 貞子
- 会計 児玉真寿美